

会報

かわうそ

49号

[発行責任者]
 清流球磨川・川辺川を
 未来に手渡す流域郡市民の会
 共同代表 緒方俊一郎 岐部明廣
 熊本県人吉市南泉田町25-2 TEL/FAX0966-24-9929
 2013年11月4日発行

豊かな球磨川を再生させるために 瀬戸石ダム撤去を求めます！

～瀬戸石ダム水利権更新は来年3月です～



来年3月末で水利権の期限切れを迎える球磨川中流域（芦北町・球磨村）の瀬戸石ダム。瀬戸石ダムは、荒瀬ダムの約10キロ上流に位置する電源開発（株）の発電専用ダムです。住民がその撤去に向けて動き出しました。

瀬戸石ダム完成から約60年間、流域住民はその弊害に悩まされてきました。瀬戸石ダムはダム湖周辺の洪水水位を押し上げ、水質汚濁など環境にも悪影響を及ぼしてきました。

電源開発は瀬戸石ダム存続のために、水利権更新のための手続を進めようとしています。更新手続きの中で、申請を受けた国交省は、関係行政機関の長（発電目的の場合は経済産業相）と協議し、知事の意見を聴取することが決められています。

私たちが行った聞き取り調査によると、瀬戸石ダム周辺にお住まいの住民のほとんどは、瀬戸石ダムはないほうがよいと思っています。球磨川漁協も瀬戸石ダム撤去を求める決議を2度も行っています。

流域住民も「瀬戸石ダム撤去を求める連絡協議会」を結成し、流域首長への要請行動を行いました。10月3日には国会議員立会いの下、国土交通省の担当者からのヒアリングを行いました。

今後さらに、撤去を求める声を大きくして、国・熊本県・流域自治体・電源開発に働きかけていく必要があります。



ゲート全開時の瀬戸石ダム

●2013年5月～11月の出来事

13. 6. 4 「豊かな球磨川をとりもどす会」が八代市に瀬戸石ダム水利権更新に関し市民と県が協議する場を設けることを要望
6. 23 「豊かな球磨川をとりもどす会」が坂本公民館で瀬戸石ダム学習会を開催（70人参加）
7. 16 国土交通省と熊本県に瀬戸石ダム撤去に関する要望書を提出
8. 18 第17回川辺川現地調査（相良村体育館150人参加）
8. 19 手渡す会など4団体が熊本県、電源開発、国土交通省に瀬戸石ダム水利権更新の見送りを求める要望書を提出
8. 26 川辺川水利訴訟原告団・弁護団が老朽化している既存水利施設の補修を農水省に要求

9. 9 国土交通省、川辺川ダム計画の水没予定地で営業活動ができるよう検討することを表明
9. 10 竹崎一成芦北町長が瀬戸石ダムの水利権更新で住民の考えを重視することを表明
9. 20 熊本県が球磨川流域12市町村の防災対策ソフト面に財政支援する考えを表明
9. 24 竹崎一成芦北町長に瀬戸石ダム撤去に向けての要請書を提出
9. 26 田中信孝人吉市長に瀬戸石ダム撤去に向けての要請書を提出
10. 3 「豊かな球磨川をとりもどす会」が国土交通省に瀬戸石ダム水利権更新を認めないよう要請。国会議員立会いの下、国土交通省の担当者からのヒアリング
10. 4 中村博生八代市長に瀬戸石ダム撤去に向けての要請書を提出
10. 6 球磨村神瀬地区などで瀬戸石ダム撤去を求めるビラ配布活動
11. 1 柳詰正治球磨村長に瀬戸石ダム撤去に向けての要請書を提出

●芦北町長、球磨村長の意向

瀬戸石ダムの左岸に位置する芦北町議会で9月10日、竹崎一成町長が電源開発が持つ瀬戸石ダムの水利権更新について「国や県の動静を慎重に見守り、蒲島知事に意見するかどうか流域住民の考えを聞くなかで対応したい」「日本の原風景は取り戻さなくてはならない。ダム建設は時代の要請だったが、人工的な構造物は自然界にないほうがよい」などと述べました。今後、流域住民やダム反対団体と意見交換する考えも示しました。

瀬戸石ダムの右岸に位置する球磨村議会でも同日、瀬戸石ダムの水利権更新がただされ、11月1日には柳詰正治村長が瀬戸石ダム撤去を求め訪れた村民ら10名の意見にじっくりと耳を傾けました。

河川法では、国が水利権更新手続きを進める際に知事への意見聴取を定めています。地元首長の意向は知事の意見に大きな影響を与えます。

●人吉市長にも要望書提出

9月26日、田中信孝人吉市長と面談し、瀬戸石ダム撤去に向けての要請書を提出しました。田中市長は、清流球磨川を後世に残したいという基本スタンスを述べた上で、「県や国がどう考えていくのか確認していきたい。発電の代替案を知恵を出しあい考えたい」と述べました。

「瀬戸石ダムの発電の代替案」ということですが、瀬戸石ダムの発電量や、どこに送電されているかなどの基本的な情報さえ電源開発は明らかにしていません。瀬戸石ダムの発電機も耐用年数は過ぎているはずですし、維持管理やメンテナンスにどれくらいのコストがかかるのかなども明らかにしていません。発電にかかった費用が電気料金に上乗せされる、日本の売電システムを見直すことこそ必要です。

●瀬戸石ダム撤去を待ち望む住民



瀬戸石ダム学習会(坂本公民館)2013.6.23

半世紀以上前に球磨川の中流域に設置された荒瀬ダムと瀬戸石ダムにより、中流域ほぼ全域が洪水常襲地帯になったことは国交省作成の資料でも明らかです。堰上げ背水による水位上昇と、多量の土砂堆積によるさらなる水位上昇を引き起こしているからです。

ダムができるまでは水害とはほとんど無縁だった球磨川中流域。住民はダムの害を体験的に認識しています。

私たちが10月6日に球磨村神瀬地区などでのビラ配り活動で行った住民への聞き取り調査でも、ほぼ全員が瀬戸石ダムの撤去を望まれていました。

瀬戸石ダムによる洪水や、悪臭を放つダム湖の水と長年を共にする暮らしの辛さに耐えておられる住民の方。ダム湖のアユは臭くて食べられないと不満を持っておられる住民の方たちが、静かに瀬戸石ダム撤去を待ち望んでおられるのです。

瀬戸石ダムの撤去に取り組む機会は、水利権の更新を目前に控えた今しかありません。更新が認められたならば、住民はあと30年間も瀬戸石ダムの害に悩まされ続けることとなります。

現段階での電源開発株式会社の考えは、単純な水利権の更新で終わらせようとしています。しかし、球磨川は公共のものであり、一企業のものではないはずです。国や県に瀬戸石ダムの水利権更新を認めさせないよう、今こそ声を上げる時です。そして、流域住民が望む水害のない、豊かな自然の球磨川の再生を実現しましょう。

荒瀬ダムに続いて 瀬戸石ダムも撤去しましょう！



白く濁った瀬戸石ダム湖(球磨村神瀬)



瀬戸石ダムゲート開放時にダム湖から出現した
高音の瀬。左写真と同じ位置から撮影

国土交通省は「球磨川ダム水環境改善事業一事後評価資料」(平成20年2月12日発行)の中で、「荒瀬ダムが撤去されることになればアユをはじめとする魚類等の生息環境は良好なものになる」と記述しています。

そして、「魚類等の生息環境を抜本的に改善するためには、瀬・淵及び産卵場所等の再生なども含めた対策を講じていく必要がある」と結んでいます。この河川環境の保全に不可欠な瀬・淵や産卵場所を破壊しているのがダムや堰など、川をせき止めてしまう人工構造物です。

もし、球磨川中流域に瀬・淵をとり戻し、魚類等の産卵場所を蘇らせたいと願うのであれば、荒瀬ダムに続いて瀬戸石ダムも撤去するしかありません。それが実現できれば、本当の意味での日本三大急流・球磨川の名にふさわしい豊かな生態系と景観をもった球磨川を取り戻すことができるのです。

編集後記 瀬戸石ダムのゲートが50年ぶりに開放された2003年2月のことをよく覚えています。ダム湖からたくさんの瀬が現れ驚きました。海路駅の前で、ダム湖から現れた清流球磨川を50年ぶりに目にしたお年寄りが涙されていました。瀬戸石ダムがなくなれば、球磨川下りの「急流コース」に匹敵する、すばらしい観光資源が生まれます。洪水に襲われるダム湖周辺の地域は、洪水の水位がぐっと下がります。九州山地に降ったきれいな水と森林の栄養がそのまま海まで流れ、八代海もきれいになります。荒瀬ダムに続き瀬戸石ダムも撤去できたら、美しい昔の球磨川がきっと取り戻せるに違いありません。11月には熊本市と八代市坂本町で2つの集会が開催されます。是非ご参加ください。(N.O.)